



ホワイトイルミネーション (函館駅前)

第215号



◇ 巻頭言 ◇

母校とこしえに

板東 忠康

(昭和33年卒 夕陽会函館市支部顧問)

昨夏、本年度の夕陽会総会に参加した。席上、橋田恭一会長のご挨拶が胸を打つ。「――私は数年間、特にこの三年間はフル回転しました」。簡明な述懐にこめられた会長のご奮闘を想い、私は頭を垂れた。

続く大懇親会で北海道教育大学副学長星野立子氏のご祝辞も心に残る。「函館校学科再編のため怒濤の二年間を過ごしました」とのご回想には、地域の熱い要請をうけて、教職課程再開のため心魂を傾けられたさまが窺われて感銘深い。

私事であるが、わが母校の小・中学校さらに高校も、学校統廃合の流れの中でその名実を変えた。老齢の身には学びのふるさと喪失の寂寥がひとしおである。それゆえ函館校の教員養成課程の復活は、自らのアイデンティティを支える最後の砦が死守された思いである。改めて関係者のご尽力に心より感謝申したい。

しかし、一個人の感懐など風の前の塵の如き厳しい現実が、わが国にはある。それは既に直面している人口減少社会の進行である。民間の「日本創成会議」は、二〇四〇年までに半数近くの市区町村が消滅するとの衝撃的な危機を予測する。とすれば人口減少を食い止める国の施策が喫緊の課題であるはず。雇用の安定を基盤に、地域の実情に即した子育てしやすい環境を整えること。子育て支援体制の充実が焦眉の急といえる。

先の懇親会の席で子育て支援に関わる興味深いお話を伺った。甲府からご参加の参議員議員・森屋宏氏のご祝辞である。それは氏が三十五年前、母校での卒論

テーマを「幼保一元化」と定め、将来の幼児教育のあり方を考察したとのご主旨。幼保一元化が国政レベルで論議されたのは二十年ほど前。少子化対策の動きの中で、民主党政権が「幼保一体化」を政策化したのが五年前。同年発表のユネスコ「幼保一体化レポート」も、包括的サービスにおいて効率性があると示唆している(『保育のみらい』秋田喜代美)。

私は、森屋氏の三十五年前の優れた知見と先見性に大きな拍手で応えた。

わが母校は百年を迎えた。これからも百年続いてほしい。さりながら万物は流転する、とギリシアの先哲は言う。

母校は改組を経て本年度、地域教育専攻を含む国際地域学科が誕生した。今後さらに函館校の学科が改変されるとしても、しかし、私は母校開学の精神「土地墾闢・人民蕃殖」は、永遠であろうと揺るぎなく信じている。

かつて私が夕陽会函館支部事務局に携わっていた二十年前、母校の教学理念を近づく新世紀の風を想定して「創造と発展」と読み替える言辭を弄した。今顧みて不遜の極みとはじている。

不確かなこの世にあつて、「確かなものは言葉である」と養老孟子も説いておられる。「墾闢」の「ひらく・あける」、「蕃殖」の「しげる・ふやす」という福祉のある原義は、この幾十年経ても変わりはずまい。漢字の表意性という特性もあるなにより私たちは古代より「言霊の幸ぶ国」の住人なのだから。

# 栄誉に輝く同窓



○瑞宝双光章

## 感謝

函館市 伊藤 正夫  
(昭和35年卒)

昨年十一月十日、空あくまでも澄み渡った日。国立劇場で平成二十六年年度「秋の叙勲・勲章伝達式」が開催された。生涯に一度のことと妻同伴で参席した。二十一時四十分。国歌斉唱・勲章伝達・祝賀曲奏楽・文部科学副大臣挨拶・受賞者代表挨拶と時間通り三十分で閉式。その後、文科省職員が受賞者一人ひとりの胸に勲章を着けられ、用意されたバスに分乗し、皇居に向かった。皇居・豊明殿で天皇陛下の拝謁がありました。陛下のお言葉、受賞者代表の答礼・その後、陛下は整列している受賞者の間をゆつくりほえみながら、お言葉をかけながら退席されました。経験したことのない緊張と感激で胸があつくなりました。このような晴れがましい場に参列できた感激・感動と共に改めて、それに値する功績があったのだろうかと思いをこめさせていただきます。

教員歴十四年十か月。指導主事(主査)歴十年二月。校長歴十年。顧みれば渡島・日高・後志教育局で行政での経験をともに、子ども父母と一緒に作りあげた落合雪まつり。研修・公開研に積極的に挑戦してくれた教職員。校長会の仕事で不在がちな学校を見守ってくださった教頭先生。三十五年間の教職の務を無事に終了できたのは、これら人々のおかげと感謝している。



○北海道教育功績者表彰

## 同窓の絆と支えに感謝して

岩見沢市 杉野 幹夫  
(昭和53年卒 岩見沢市立光陵中学校長)

この度は、図らずも北海道教育功績者表彰の栄に浴することとなり、不勉強の自分にとりまして、まさに身に余る光栄であり、大変恐縮に感じております。全道には、輝かしい実績を上げ、多大な功績を残された教育関係者の方がたくさん活躍していらつしやる中、私みたいな者が果たして受賞して良いものかどうか戸惑いを感じ、誠に申し訳なく思っております。

心温まるお祝いの言葉、励ましの言葉をいただいたとき、改めて同窓の絆の強さを感じ、思い起こせば、生まれ育ったこの空知の地で昭和五十三年に教職のスタートを切り、今年度末をもって三十七年間の教員生活に終止符を打ちます。この間、同窓の先輩や同僚の皆様方には、いろいろな機会に声をかけていただき、支えていただいたお陰で今の自分があるように思います。この絆・支えは、私にとって大変心強く本当にありがたいことでした。退職後におきましても、この受賞に恥じないよう精進してまいります。ご発展と会員の皆様のご活躍を心から祈念し、感謝とお礼の言葉とさせていただきます。



○北海道教育功績者表彰

## 故郷日高の地にて

新冠町 高野 卓也  
(昭和53年卒)新冠町立新冠中学校長)

この度、平成二十六年度北海道教育功績者表彰の栄に浴することとなりました。私のような者にとりましては、身に余る光栄であり、日高教育局をはじめ各町教育委員会の皆様、多くの先輩や同僚、とりわけ夕陽会の皆様のお陰と、心から感謝申し上げます。また、受賞に際し、橋田会長様をはじめ、同窓の先輩や後輩の皆様方から心温まるお祝いの言葉をいただき、大変ありがたく、改めて夕陽会の絆の強さを感じさせていただいたところでもあります。振り返りますと生まれ育った日高の地で教職に就き一教師として歩み続けた日々、指導主事・指導主幹、そして校長

としての日々、その折々で夕陽会の皆様から多くの御指導・御支援を賜りました。全道各地で出会い助けてくださった夕陽会の方々全てが私にとってかけがえのない存在であり、私自身を成長させてくれた源であったと考えております。今、日高管内の学校教育においては、学力向上が最大の課題であり、課題解消に向けた取組が急務となっております。この受賞を機に一層精進を重ねて、我が故郷日高の子どもたちが確かな学力を身に付け、幸せを実現できるよう、全力を尽くして参る所存であります。結びに、夕陽会の皆様の御多幸を祈念し、感謝とお礼の御挨拶といたします。



○北海道教育功績者表彰

## 出会いと絆に感謝して

函館市 高橋 登  
(昭和53年卒 函館市立的場中学校長)

この度、身に余る平成二十六年度北海道教育功績者表彰という光栄に浴することとなりました。受賞に際しまして、私の一般職時代の恩師でもあります橋田会長様をはじめ、同窓の先輩・後輩の皆様方から、心温まるお祝いの言葉を数多くいただき心より感謝申し上げます。今回の受賞は、着任以来、自分を熱く指導して下さいました夕陽会の皆様、関係機関・地域の方々のご指導やご支援のたまものであり、そうした皆様と共にいたただいた賞であると思っております。私の教師としてのスタートは、胆振管内の有珠小学校優健分校でした。当時、

右も左も分からない自分に声をかけ励まし指導して下さいましたのも夕陽の先輩たちでした。二十代後半に函館に戻る事ができましたが、全国的な荒れが中学校時代、着任校も例外ではありませんでした。生徒指導の難しさと重要性に真正面から立ち向かい、愛情をもって生徒を厳しくも温かく指導する先輩から、感銘と多くの教えを受けました。その経験が、学校経営を進める時の、私の揺るがぬ信念となり基盤とすることができました。今後とも皆様のご厚情に応えるべく一杯努めていく覚悟です。夕陽会の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。



○函館市文化賞

# 函館市文化賞をいただいて

函館市 小笠原 愈

(昭和35年卒 函館市教育経営研究所長)

この度、函館市長工藤壽樹様から、議会議長様、教育委員長様等多くの方々のご臨席のもと、平成二十六年函館市文化賞をいただきました。私は、学芸大函館分校を卒業後、函館市の小学校等に十五年間、札幌市等道央で教育研究所、教育庁等に二十三年間勤務をして定年退職し、函館に戻り十六年目ですが、この度の受賞はひとえに夕陽会の皆様や函館の教育関係者のご恩情によるものであり、心から感謝を申し上げます。受賞の主旨は、地方教育振興への貢献ということであり、帰函後の短大、大学での人材養成や特別支援教育への尽力、教育経営研究所の研究、研修、家庭生活力ウーンセラ―養成への助力等が主な内容であり、従来の文化の分野をこえた広がりのおかげでの

ことでしたので、推薦の労を担われた方々に心から敬意を表します。私は、平成十年度教育功労文部大臣表彰や第二十九回博報賞(個人の部、全国で三名)をいただきましたが、この度の受賞には、これらの体験と異なって、直接、強く、函館市民の教育をも含めた郷土振興に向けた熱意とぬくもりに満ちた厚い愛情、配意を体感し、深く感動を覚えていきます。今後、老体ではありますが、函館市の教育振興のために努力を続けるつもりです。夕陽会のご配意に重ねて感謝し、会員の皆様のご多幸を祈念申し上げます。ほんとうにどうもありがとうございます。



○函館市文化団体協議会 青麟章

# 皆様に感謝感謝

函館市 北濱 豊

(昭和35年卒)

この度、思いもよらず平成二十六年函館市文化団体協議会より青麟章という身に余る光栄に浴しました。浅学非才でこれといった貢献や実績もない自分と戸惑いと驚きの思いです。函館書芸社・函玄社の多くの先輩、取り分け夕陽会の多くの先生方や皆様の支えと後押しのおかげと深く感謝申し上げます。受章に際しまして、夕陽会支部をはじめ多くの皆様から心のこもったお祝い、励ましの言葉を戴き誠に有難うございました。

思いで式に参列させて頂きました。函館市長を初め多くのご来賓のご臨席の中、安保天壽協議会々長より記念品も添え授与され、私に纏わる方々に感謝感謝の気持ちで一杯でした。今回の受章を契機になお一層精進し、「学ぶ意欲のあるうちは青春だ。」と元気を保ち歩んでいきたいと思えます。そして、自分の顔に見える刻字作品づくりに努力し、刻字愛好家との交流を深めていきたいと願っています。夕陽会の皆様の益々のご多幸をお祈りして、感謝とお礼のご挨拶いたします。誠に有難うございました。

受賞(章)おめでとうございます

\*瑞宝双光章

野畑 義 男 氏 (昭22年卒)

日立市水木町二の一六の六の一

\*瑞宝双光章

宮川 宏 氏 (昭21年卒)

北斗市追分二の一三の三五

\*瑞宝双光章

阿部 睦 雄 氏 (昭23年卒)

函館市人見町二の五



## 平成27年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議 のお知らせ

○ 日 時 平成27年 6月20日(土)

○ 会 場 函館国際ホテル

函館市大手町 5番10号

TEL 0138-23-5151

- 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- 総 会 16時～17時
- 大 懇 親 会 17時30分～20時

# 会務報告



幹事長  
奥崎 敏之  
(昭和60年卒)

## 《一般会務・函館校関連の動き》

- 12/16 五分校友会・学長懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)
- 1/5 指導主事等激励会に青柳副会長、奥崎幹事長が出席する。(札幌)
- 1/30 五分校友会と道教委立川教育長との懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)
- 2/5 函館市支部顧問会議に橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(函館)
- 2/11 日胆ブロック会議が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(静内)
- 2/14 第二回渡島支部支会長幹事長会議が開催され橋田会長が出席する。(函館)
- 2/20 函館市支部受賞祝賀会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)
- 2/23 第二回本部役員会が開催される。(函館)
- 1/17 青森西北五支部総会が開催され、齊藤副幹事長が出席する。(五所川原)
- 1/4 特別支援学校支部総会が開催され、平田幹事長が出席する。(札幌)

1/24 胆振連合支部総会が開催され永井副幹事長が出席する。(室蘭)

1/24 網走連合支部総会が開催され、平田副幹事長が出席する。(川湯)

1/25 後志支部勇退者感謝の会が開催され、奥崎幹事長が出席する。(余市)

2/4 道教育功績者表彰祝賀会に橋田会長、青柳副会長、奥崎幹事長が出席する。(札幌)

2/13 苫小牧支部ご勇退激励会・懇親会に天野副会長が出席する。(苫小牧)

2/14 渡島支部勇退者激励感謝の会に、橋田会長が出席する。(函館)

2/21 檜山支部先輩を送る会に奥崎幹事長が出席する。(江差)

受章おめでとう  
ございます

### \*瑞宝双光章

米津 正 芳 氏  
(昭和25年卒)  
函館市赤川町五四二の八

### \*瑞宝双光章

大坂 昭 雄 氏  
(昭和22年卒)  
函館市川原町一三の二

夕陽会ホームページから  
夕陽会報のバックナンバーが  
ダウンロード、プリントアウト  
できます。

ホームページの夕陽会報をクリックすると、夕陽会報180号（平成15年7月）～212号（平成26年3月）までのバックナンバーを閲覧、印刷できます。ご活用ください。

## 平成26年度 夕陽会研修助成先一覧

(H27. 2. 23現在)

- 1 夕陽会小樽支部 夏季研修会
- 2 第47回北海道言語障害児教育研究大会渡島・函館大会
- 3 夕陽会胆振連合支部 『夕陽会学校経営セミナー』
- 4 夕陽会空知支部全体研修会 『教育講演会』
- 5 第69回北海道社会科教育研究大会函館・渡島大会
- 6 平成26年度 夕陽会札幌支部 会員研修会
- 7 平成26年度 夕陽会札幌支部 若手会員研修会
- 8 全道へき地・複式教育研究大会十勝大会
- 9 平成25・26年度渡島教育局研究指定 函館市立桐花中学校公開研究会
- 10 北斗市立島川小学校公開研究会
- 112 夕陽会特別支援学校支部2 講演会
- 12 夕陽会小樽支部 冬季研修会
- 13 夕陽会小樽支部 若手育成勉強会・交流会
- 14 平成26年度 夕陽会岩手支部総会盛岡集会
- 15 夕陽会道北3支部交流会
- 16 夕陽会留萌支部研修会

(研修部長 桐花中学校 風間 和夫)

## 第10回夕陽書道展のお知らせ

と き 平成27年11月5日(土)～11月9日(月)

ところ 函館市芸術ホール・ギャラリー

\*詳細は平成27年7月号の会報第216号にてお知らせいたします。

—北海道教育大学函館校創立百周年記念—

# 美術・書道展を開催

2015年1月30日(金)～2月1日(日)

北海道立函館美術館

北海道教育大学函館校創立百周年を記念して、函館校出身者の百年間の作品を一堂に展示する「美術・書道展」が1月30日から2月1日までの3日間にわたり、北海道立函館美術館で開催された。会場には、北方教育資料館蔵の卒業生作品から最新学生作品まで、百年間の歴史に彩られた美術・書道作品119展が展示され、多くの人が観覧に訪れていた。初日の1月30日には、開催に先立って開会式が行われ、関係者によるテープカットに続いて記念観覧が行われた。今回の展示は「書と絵画のコラボレーション」と「百年のアーカイブ」をテーマに、美術展・書道展が同会場で行われ、また創立百年の歩みを展示するコーナーも設けられた。参観者の方々は、皆、興味深くまた感慨深そうに展示に魅入っていた。



関係者によるテープカット



# 美術展・展示作品より



37 三箇 三郎氏「恵山」



40 鈴木 秀明氏(実行委員長)「太陽の船」

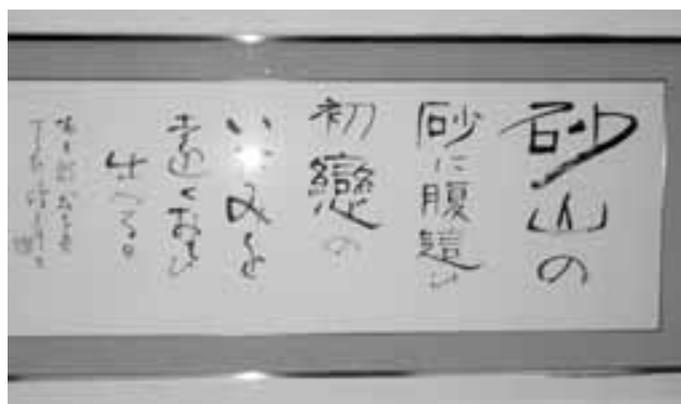


13 繪面 和子氏(夕陽会副会長)「秋望」



48 土谷 敬氏(元夕陽会幹事長)「アクトレス(レリーフ)」

# 書道展・展示作品より



15 金子鷗亭 石川啄木歌 砂山の



37 永田 敏雄氏(青雲)「風」

# アーカイブ展示 (明治~昭和教科書の変遷)



# 社会で活躍する若き夕陽会員たち



## 大学四年間で得たもの

富田 菜月

(平成26年卒 北海道銀行山鼻支店)

大学を卒業して、間もなく一年が経とうとしています。大学生として函館で過ごした四年間は、あつという間に過ぎてしまったという感覚でしたが、社会人としての生活はそれ以上に、毎日が目まぐるしく、あつという間に過ぎていきます。

私は現在、銀行員として、北海道銀行山鼻支店で勤務しております。大学時代も函館市で一人暮らしはしていましたが、札幌市で新たに一人暮らしを始め、働きながらの一人暮らしに苦労しながらも徐々に慣れてきたところでもあります。

現在私は、銀行の窓口でお客様の口座をお預かりしたり、お支払いをしたり、住所や名義の変更を受け付けたり、資産運用のお話をしたりと、多くの業務を担当しております。教えきれないほど多岐にわたる業務内容に、一年が過ぎようとして今でも、全てを完璧に処理することはできません。しかし、入行当時より、一人で完結できる業務が増え、金融知識も増えてきたと実感しており、少しずつではありますが成長できているという喜びと、一方でまだまだ知識が足りず、これからより一層努力していかななくてはという気持ちでおります。

私は就職活動を始めた時から、金融機関を志望していたので、銀行で働くということは私の夢であったのですが、やはり働くということは大変なことであり、つらいと感じることも少なくありません

でした。しかし、そんな時は学生時代のことをよく思い出し、友人と連絡を取り合い、活力をもらっております。

私は学生時代、多くの経験をする事ができました。

私は、バドミントン部に所属しており、週五日の練習や、本気で勝ちたいと臨んだ大会等、多くの経験をさせてもらいました。今思うと、あれ程本気で勝ちを目指したり、部活動を良い方向に持っていたと話し合ったりできたことは私の中でとても大きな経験になりました。それと同時に、一緒に汗を流し、きついことも一緒に乗り越え、本気でぶつかり合うこともできる仲間もできました。

学生時代には他にも、ゼミ活動で香川県に行き、知らない土地で現地の方にインタビューをするという経験もしました。ゼミでもまた、夜遅くまで共に活動し、一緒に乗り越えた仲間もできました。

私が教育大学函館校で過ごした四年間は、毎日がとても充実しており、多くのことを経験し、吸収できた四年間でした。

「本気で物事に取り組み」素晴らしさを感じ取れたことや、卒業後、離れ離れはなってしまうりましたが、一生大事にしたいと思える仲間や友人がたくさんできました。函館校で得たものを忘れず、これからも日々精進していきたいと思えます。



## あたりまえのことに問いかける

柳内 汐砂美

(平成26年卒 ㈱マイナビ キャリアサポート課)

社会人になり約十か月が経ちました。あと二か月で後輩ができるとは信じがたいほど、今年一年はあつという間、かつ非常に刺激的な一年でした。

私は現在「株式会社マイナビ(以下マイナビ)」に勤めています。マイナビは主に人材や広告に関わるサービスを提供しています。私はその中のキャリアサポート課という課に属しています。キャリアサポート課の仕事の一言で表すとすれば、「学生がより納得のいく就職ができるよう、サポートする仕事」です。学校の授業で就職に関するガイダンスを行ったり、外部の会場で講座を開いたり、合同企業説明会などでは運営スタッフ兼キャリアサポーターとして学生の相談役を務めています。また就職情報サイト「マイナビ」に関する情報を、それぞれの学校の学生の雰囲気やそのときの時期に合わせてお伝えする、というような広報活動もキャリアサポート課の重要な役割です。

そんな私は、実をいうと物心ついたころから「と言えばよいのか、気づいた時には：というべきなのか、とにかく幼い頃からずっと将来の夢は『先生』になることでした。もちろん北海道教育大学に進学した理由も、教師になるためです。

大学三年の秋、一か月にわたる教育実習を終え、周囲の友人たちは就職活動を始めるころ、ふと「私はなぜ教師になりましたんだっけ?」と考えたことがありました。これまでも「どんな教師になりたいか」ということに関しては考えたことがあったり、自分の中に理想の教師像のようなものは存在したのですが、この問いに関

しては納得のいく答えを出すことができませんでした。そこで私は初めて「なになりたいか」ではなく「なにをやりたいか」という視点で将来について考えたのです。

この時の自分の経験は今だからこそ、非常に重要だと感じています。現在ガイダンスを行っていると「ガイダンスへ参加する何かが情報を与えてもらえる」という図式が出来上がっている学生が多いです。そこで、私は「気づかせる・考えさせる」ガイダンスを二年目の目標として掲げます。これまでは「教える・伝える」ことに重きを置いていました。しかしどんなに良い情報を得たとしても、就職活動は「自分自身」の活動です。自分で考え、自分で選択し、自分で自分のことを伝えることができるようになるためには、普段考えないような当たり前のこと、自分のことを考えることが必要不可欠です。どうしたら考えてもらえるだろうか? 新たに気づきを与えられるだろうか? と考えた先で役に立ったのは教育実習での経験であり、結果的ではありませんが「教師になりたい」という自分の思いは確実に現在の仕事の一部で生きていることに感謝しています。

現在、ありがたいことに道南のエリアを担当させていただき、教育大函館校で話をする機会もいただいております。後輩たちへ、そして母校へなにか少しでも恩返しができるよう、今後もより一層楽しみながらも努力し続けてまいります。

# 支部の歴史をふりかえって



## 留萌支部の歴史を振り返って

留萌支部長 秋葉 良之  
(平成元年卒 留萌市立留萌小学校教頭)

私がこの留萌地区の支部長を仰せ付かって十年の年月が過ぎました。振り返ってみれば、本当にいろいろなことがあった十年間でした。この度、「支部の歴史を振り返って」というテーマで原稿のご依頼をいただきましたが、正直困惑いたしました。何故なら、本支部にはこれまでの活動をまとめた沿革史のような資料もなく、その歴史を繙いていくことができません。そこで、私が留萌支部長となりまして平成十六年以降のを中心にして述べさせていただきます。

平成十六年の二月、留萌支部長と幹事長を長く務められていた池田忠喜先生と中村啓之先生がそれぞれ宗谷・網走管内へ同時に異動されることとなり、当時、まだ一般教員だった私にいきなり支部長就任の打診が入りました。青天の霹靂とはまさにこのこと。私には荷が重すぎます、と固辞したかったところですが、中村先生とは以前同じ職場で大変お世話になっていたこと、そして、この時の人事異動により留萌支部の役員から管理職が不在となり、自分を含めてその会員の多くが平成以降の卒業という大変厳しい状況にあることを考え、自分自身役不足であることは十分承知の上で、この支部の危機を乗り切るべくお引き受けすることにいたしました。

しかし、それまで留萌支部の運営にはほとんど携わっていなかったため、本部とのやりとりはおろか、支部の運営について、何をすることも訳が分からず、私と同時に幹事長に就任した熊倉一弘先生とともに手探りの状態が長く続きました。本部にもいろいろご迷惑をおかけしたことも多かったと反省しております。他大学の同窓会が大きな会場で盛大に懇親会を催している中、私たちは居酒屋に入り、二人だけで杯を上げることもありました。でもその時の私たちの思いは一致していました。夕陽の火 絶やすまじく

苦しいときには近隣支部の諸先輩が支えてくださいました。宗谷の間瀬先生・島田先生、上川の石川先生、森先生、近藤先生；お会いした時はいつも力強く励ましてくださいました。支部長就任一年目の秋、留萌支部の主管で開催した「道北三支部交流会」。初めての経験であり、緊張しっぱなしの私たちではありましたが、みんなで歌った「夕陽賛歌」は本支部への大きなエールとなりました。その光景は今も私の脳裏にしつかりと刻み込まれています。

私たちはその後の転勤を契機に少しずつ同窓の輪を広げてまいりました。まさに一つ一つ小さな石を積み上げるがごとく、ゆつくりと…。留萌管内は少子化の

影響で学校の統廃合が急速に進行し、会員数もどんどん減ってきていますが、支部主催の懇親会には今ではいつも十名以上の仲間が顔を出してくれるようになりました。また、最近には新卒や期限付の若い先生もずいぶん参加してくれるようになり、毎回とても明るく、アットホームな雰囲気になってきました。

私たちは道内で最も小さな支部ですが、その運営方針はこの十年間一貫しています。それは同窓の絆を大切に、身の丈に合った活動に取り組むというものです。そして、日頃勤務校では打ち明けられない悩みをざつとくばらんに出し合い、その解決策をみんな考え、翌日からの仕事に元氣よく向かっていけることを大事にしています。

また、平成二十二年度からは、ただお酒を酌み交わす懇親会だけでなく、参加してくれた先生方にとつてもっと意義のある集まりにしていこうと、研修にも力を入れていくことにしました。記念すべき初年度は当時留萌教育局に勤務されていた吉田社会教育主査、花松・細川両指導主事が講師となり、学習指導要領改定の趣旨等について非常に分かりやすく説明をしていただきました。その後、教育局に勤務する同窓の方が不在となり、講師選定には本部奥崎幹事長様のご配慮を賜り、本庁の方々にお越しいただいております（役職名は当時のもの）。

■二十三年度（総務政策局教育政策課教育計画グループ主査）渡邊直樹様「北海道教育の現状と課題」  
■二十四年度（学校教育局義務教育課学力向上グループ指導主事）熊谷 誠様「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業の実際」  
■二十五年度（学校教育局義務教育





# 函館市役所北海道教育大学函館校 卒業生懇親会を開催して

平井尚子

(昭和59年卒 函館市教育委員会生涯学習部次長)

函館市役所では、卒業した高等学校や大学などの単位での同窓会がいくつも組織されており、会則や年会費を定めるほか、毎年、定期的に懇親会を開催するなど、同窓を中心とした結びつきは非常に強く、そうした連携もある面では円滑な市政運営の一翼を担ってきていると感じております。

では、翻って、我が北海道教育大学函館校の卒業生はどうかと申しますと、私は昭和五十九年三月卒業組ですが、現在、私の先輩という問わずか九人しかいないという状況です。つまり、私が市役所に就職した頃には、先輩の数も少なく、しかも教育大に行きながら教員にならなかったという後ろめたさの方が強く、どちらかというところ、できれば出身大学は秘密にしておきたいな、そんな気持ちになった三十年前を今でも鮮明に思い出すことができます。

さて、そのような中、じわりじわりと教育大学函館校の卒業生も函館市役所において幅を広げはじめ、また、即戦力となる若者たちも出現し、このたび函館市教育委員長をお願いしております橋田夕陽会会長の強い後押しもあり、四年ぶりに卒業生懇親会を開催いたしました。

過去には、平成二十一年度、二十二年度の二回、教育大学や教員の方々との交流という形で懇親会を開催したことはありますが、今回のように函館市役所に就職した教育大学の同窓生が一つの仲間として集まったのは初めてのことであり、私たち職員はもとより、これから教育大

の卒業生が函館市職員を就職先として目指すことを促すためにも、手前味噌ではありますがありますが意義のあつたものではないかと思っております。

平成二十六年年度函館市役所北海道教育大学函館校卒業生懇親会は、平成二十六年十一月十四日午後六時三十分からロワジュールホテル函館を会場に開催されました。出席者は百十八名の卒業生のうち橋田教育委員長を含めて三十四名、そこに採用が少なく同窓生が少ない札幌校と旭川校の二名の方にもお越しいただき、都合三十六名で懇親を深め、多くの情報交換がなされました。

最初のご挨拶は橋田教育委員長にお願いたしました。乾杯は平成二十六年度採用の若さ溢れる笑顔の可愛らしい干場衣知乃さんの素敵な発声で、あつという間に同窓の仲間が一つに結ばれたような雰囲気になりました。

今回は、夕陽会からのご支援も頂き、参加者全員で特賞から参加賞までの景品やカラオケ(?)が当たるゲームで大いに盛り上がり、来年の幹事も率先して中堅職員が引き受けてくれることとなり、昭和五十八年三月卒業の堀田三千代さんの発声で会を閉めることとなりました。

この先、今回の懇親会をきっかけに、北海道教育大学の同窓生が一つの輪でつながり、函館市職員として連携し高い目標をもって、函館市のまちづくりに取り組んでいっていただけたらと、一人でもそう思っていただけだったら幹事冥利に尽きるなと、そんな楽しかった懇親会の報告です。

# 地域貢献を続ける夕陽会

## 縄文文化交流センターへ実物投影機・子供用ライフジャケットを寄贈

夕陽会函館市支部長 三島千春



(昭和54年卒)

函館市支部では、『地域貢献』を組織活性化策の目玉にして五年目を迎える。

本学のお膝元である函館において、社会教育施設のサービス向上に貢献することを目的とし、平成二十二年、箱館奉行所開設時に二台の車椅子を寄贈したのが始まりである。その後、二年間で同じく箱館奉行所へフロアライト五台、タブレット一台を寄贈した。これら地域貢献が評価され、市より感謝状もいただいた。私は一昨年支部長を引き受けた時、定着してきたこの取組の継続が「地域貢献を続ける函館市支部」を地域に示すことができるかと考えた。

そこで昨年、平成二十五年度は、白尻地区にある縄文文化交流センターに実物投影機を寄贈した。平成二十三年度に開設展示されていることで人気のあるセンターでは、土器づくりなど各種体験学習が用意されている。実物投影機は手元作業をプロジェクトで大きく映し、体験学習をスムーズに進めるために活用されている。

そして、今年度は、同じく縄文文化交流センターに子供用ライフジャ



ケットを着用して夏に行われる海浜学習の際に参加する子どもが着用することで安全確保が徹底するということである。縄文の人々の生活に欠かせなかった海の恵みを体験を通して学ぶこの活動が、今後はより活動しやすく安全も確保され、充実したものになると阿部千春館長もおっしゃってくださいました。

贈呈式は、二月十六日に市役所教育長室内で行われた。私から山本真也教育長にライフジャケットを贈呈させていただきました。山本教育長からは、「夕陽会函館市支部には、毎年寄贈を続けてもらい大変助かっています。子どもたちが安全に活動できるように、大切に使用させていただきます。」と、いうお礼の言葉をいただきました。

二月に行われた、支部主催受賞祝賀会。会員懇親会では八名もの函館市役所の方々に参加していただいた。同窓の輪は今後ますます教職員だけでなく、民間や役所に広がりを見せていく。それら函館市に羽ばたいた同窓生をしつかりと受け止めていく器をもつ支部へと変革し続ける決意である。





### 帯広十勝支部巴湾会支部だより

帯広十勝支部長 河合昇男  
(昭和54年卒 帯広市立つつじが丘小学校長)

各小学校では、スケートの記録会が終わり、グラウンドのリンクもその役を終え、厳しい寒さが続くここの十勝にも確実に春が訪れようとしています。

この一年間、役員の方々の協力を得ながら、何とか支部長の大役を終えることができました。

特に、昨年十二月には、網走連合支部・根室支部・釧路支部より多くの仲間をお迎えし、また、本部より遠路はるばる奥崎幹事長様にお越しいただき、道東ブロック十勝会議を開催することができました。関係の皆様改めて感謝申し上げます。

さて、今回は夕陽会帯広十勝支部巴湾会の現状・活動状況と今後に向けての課題をご報告したいと思います。

現在の帯広十勝支部は、現役会員が管理職十八名も含めて百五十九名、OB会員が八十二名、教育局に二名の計二百四十三名の会員となっています。

現職会員は年齢によってI部会(昭和六十一年まで卒業・五十歳代・校長・教頭)、II部会(昭和六十二年卒業・平成十三年卒業)、III部会(平成十四年卒業)に分かれ、それぞれが研修会や交流会等の活動を行っています。

また、OB会も積極的に交流会を行い、毎年七月七日に行っている七夕会では、

皆さんがおいしいお酒を酌み交わし、現職に渴が入るほど皆さんお元気です。

さらに、方面毎・町村毎に幹事を設け、方面単位・町村単位で活動し、会員がより参加しやすい方法を工夫しながら、活動を展開しています。

また、支部の各研修会や懇親会に初めて参加する会員に対しては、その参加費の一部を補助を、より多くの会員の参加を目指しています。

しかしながら、活動への参加率は決して高いとは言えませんし、また、会費の徴収率も七十%を目標としています、横ばいの状態です。

その打開策として、役員が分担して電話等により会員への声かけ等を行い、会員とのつながりの糸を切らないようにしています。

帯広支部と十勝支部が合併して、三年目となり、組織としても出来上がり、また、新しい組織を母体として活動も軌道に乗りつつある状態にあります。

これからは、会としてのすそ野をより広げて、会員の活動への参加率を上げて行かなければならないと考えています。



### 室蘭支部だより

室蘭支部長 南部 務  
(昭和52年卒 室蘭市立東明中学校長)

今冬は雪が少ないようです。一月に入ってもTVの天気予報では室蘭市の積雪は0を示したままです。

北海道の南西部、噴火湾をぐるりと囲む海岸線が太平洋と交わる東端に室蘭市は位置しています。海洋性気候のため冬は温暖で積雪が少なく雪かきをしなければならぬ降雪は年に数えるほどしかありません。室蘭育ちの私にとって、大学時代を過ごした函館の冬が室蘭より南に位置するにもかかわらず雪が多く気温も低いのに驚いた記憶があります。

室蘭市は明治末に日本製鋼所や輪西製鉄場(現新日鉄住金室蘭製鉄所)が建設されて以来、鉄を中心とした港湾工業都市として長く栄えてきました。高度成長期には人口も増え続け、最盛期である昭和四十年代前半には人口が十八万人を超えるまでに発展しました。しかし、その後、国内の産業構造の変化や少子高齢化等の影響により現在、人口は九万人余りに半減しています。

市内小中学校においては、児童生徒数の減少に伴う適正配置計画が進められており、十年前は小二十二校・中十一校計三十三校あったものが平成三十二年度末には小九校・中七校計十六校となる予定です。

夕陽会室蘭支部は室蘭市の発展とともに歴史を刻んできました。平成十六年に

本支部が発行した冊子「支部の歴史をふりかえって」によると、夕陽会室蘭支部は昭和三十二年四月二十七日に十三ヶ条からなる規約を制定し、組織化されたと記されています。

大正時代より市内に勤める卒業生が同窓会という形で集っていたとの記録もありますが、支部としてはここからが始まりであり、正式に記録が残るだけでも半世紀を超える歴史があります。

これらの歴史は、それぞれの時代における先達が面々と紡いできたものであり、繰り返し積み重ねてきた母校に寄せる人々の思いが時代を超えて現在に引き継がれてきたものです。

現在、室蘭支部は五十二名の会員が在籍し総会・礼会(忘年会)・学校経営セミナー・女性の会(五稜桜の会)・若者の集い等の活動を通して会員の資質の向上と親睦を図っています。

長い歴史のある夕陽会室蘭支部ですが、平成二十七年四月からは胆振管内の三支部(胆振連合支部・苫小牧支部・室蘭支部)が統合し、新たな活動を開始する予定となっています。

統合後も室蘭支部のこれまでの歴史や伝統を大切にしながら会員相互の研鑽と交流の場として室蘭市の教育発展に寄与する心意気を持ちながら支部の活動を継承していきたいと考えています。

## 支部だより

前納会費納入会員名簿追加分

伊藤良美	函館	昭51	岡頭慎一	七飯	昭51
鈴木牧男	北斗	昭53	大澤敏弘	函館	昭52
三浦澄子	室蘭	昭51	米村昭則	安平	昭52
小澤範夫	登別	昭52	富樫廣幸	函館	昭51
千田重幸	函館	昭53	荒谷敏也	苦小牧	昭52
青木昌史	函館	昭53	小笠原正司	北斗	昭52
和高敏明	八雲	昭53			

(平成二十七年二月二十日現在)

夕陽會員訃報

北野悦朗氏	昭30	25・8・29	真崎不二彦氏	昭28	27・1・8
苦小牧市明徳町1の29の12		慶子氏	函館市青柳町9の23		大橋東城氏

関口純一氏	昭36	26・7・7	安達益克氏	平5	27・1・21
函館市昭和4の28の22		トミ子氏	函館市神山町257の31		優匡氏

安井正市氏	昭15	26・7・14	奥谷雅雄氏	昭20	27・1・29
札幌市豊平区平岸2の1の2の6		トミコ氏	函館市五稜郭町10の19		桂子氏

小池賢司氏	昭23	26・11・21	能代久司氏	昭19	27・2・10
帯広市西19南2の8の15		八重子氏	知内町元町325の5		勝一氏

名東(小田)トシ子氏	昭24	26・11・26	武村齋爾氏	昭23	27・2・17
函館市本町20の13		陽吉氏	帯広市東11南9の1の3		以和氏

(平成二十七年二月二十日現在)

久保田武雄氏	昭11	26・12・15
札幌市西区山の手1の10の5の6		亨氏

木谷信義氏	昭44	26・12・30
函館市石川町335の9		秀美氏



前納会費制度(利用のお勧め)

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈  
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(三年に一度の発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用  
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二一五号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の表紙はハワイアットイルミネーションで今冬からライトアップされた函館駅前の風景をお届けします。周辺では、昨年引き続き、今年も「函館冬花火」が二月十一日から十五日までの五日間にわたって行われ、冬の夜空を彩りました。

◆今号では、民間で働くフレッシュな若手会員の様子と市役所で行われた卒業生の懇親会の様子も取り上げました。

◆これを契機に夕陽会の輪が民間企業や官公庁にも広がっていくことを切に願わずにはいられません。今後も様々な形で活躍する各界の夕陽会員を取り上げていきたいと思っております。

◆民間や官公庁で活躍する会員やユニークな活動、文化的に活躍する人物など、どしどし本部事務局や情宣部にお知らせください。お待ちしております。

◆また百周年記念企画として「一枚の写真から」と題して、学生時代に各部で活躍した勇姿や文化活動などの様子を記録した古い写真とコメントを募集しています。文字数は問いません。情宣部まで原稿とともに送りください。写真は使用後お返しいたします。

(情宣部長 古川 邦彦記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138) 46-22335

夕陽会専用(0138) 34-55220

FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)